



〒663-8558 西宮市池開町6-46
武庫川女子大学言語文化研究所

TEL 0798(45)3536

FAX 0798(45)3574

<http://www.mukogawa-u.ac.jp/~ILC>

話しことばの将来

今回のレポートのテーマは、「21世紀の日本語の話しことば」です。わたしたちが、普段話すのに使っていることば、あるいは、テレビやラジオから聞こえてくることばに対して、現代の女子大生たちはどのように考えているか、また、21世紀にそれらがどのようにあるべきだと考えているか、という点についてアンケート調査を行いました。21世紀のことばの担い手の中心となる若者たちの、話しことばに対する意見や考えを通して、将来の話しことばの姿をさぐるというものです。

調査時期は1999年2月、武庫川女子大学の学生を調査対象者として、357人から回答を得ることができました。

以下に「話すこと」「ことばの教育」「方言」「敬語」の4項目について、調査結果の一部を報告します。

◆話すことについて

話すことが好きで楽しいと答えた人が約65%。反対に苦手で嫌いだと答えた人は約6%。苦手ではないが黙っている方だと答えた人が約19%という結果が出た(図1)。好きで楽しいという人と、苦手ではないと答えた人を合わせると、8割強の人が話すことが好きなことがわかる。

話すことがもっと上手になりたいと思うか、という質問に対しては、95.7%の人がはいと答えている。いいえと答えた人は約1%にしか過ぎない(図2)。

これらのことから、女子大生の多くが、話すことが好きで、そして今よりももっと、話し上手になりたいと考えていることがみてとれる。裏返せば、今の自分の話し方には、まだまだ満足していない、ということである。次にあげる調査結果から、その理由のひとつがうかがえそうだ。

図1 話すことが好きか？

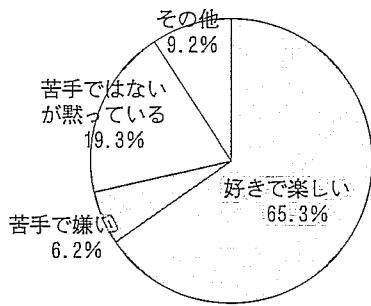
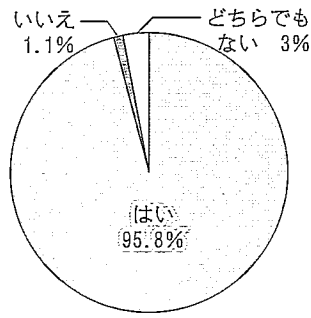


図2 話すことが上手になりたいか？



◆ことばの教育について

図3 話し方を学校で教えられたか？

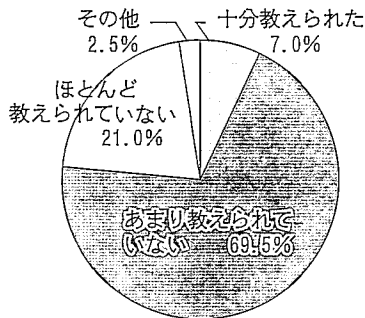
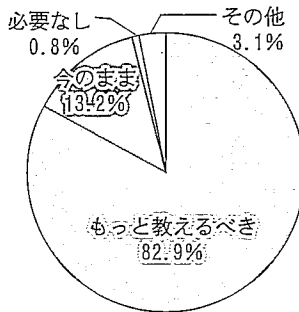


図4 将来の子どもたちには？



話し方、話すことなどについて学校で教えられてきましたか、という質問に対しては、図3のような結果が出た。十分に教えられた、という人はわずかに7%。あまり教えられていない(69.5%)と、ほとんど教えられていない(21.0%)を合わせると、実に9割以上の方が、小学校から高校までの間に話すことを教わらなかったと回答している。つまり、話すことは好きだけれども、話すことについての教育を十分に受けたようには思わないから、話すことがもっと上手になりたいと考えているのだ、という図式が成り立ちそうだ。

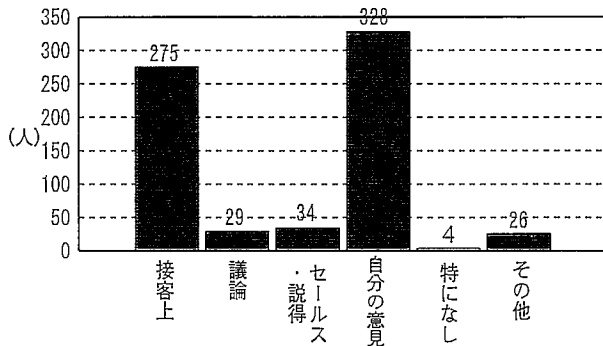


図5 教えることが大事なものの

将来の子どもたちについても、話し方、話すことについてもっと教えるべきだと考える人が8割以上である(図4)。その教える内容について、大事だと思うものは図5のようになっている(複数回答)。一番多かったのは、自分の意見・気持ちを伝える話し方で、328人。有効回答数が357

人なので、9割以上の人が大事だと回答している。次に多かったのは、接客上での話し方で、275人（8割弱）。接客上での話し方を教えるのが大事だとしたのは、女子大生たちの経験によるものと考えられる。1995年5月に、本学学生に行ったアンケートでアルバイトの職種を聞いたことがあったが、圧倒的に接客業が多いという結果であった。現在も、アルバイトの傾向がそれほど変わっていないとは考えられない。またそのアンケート結果では、アルバイト先がことば教育の場としてとして大きな役割を果たしていることも明らかになった（LCりぼーとvol.4で報告）。これらのことから、女子大生たちが、接客上での話し方を非常に大切だと考えていることがわかる。より実生活に則した場での話し方を教えることが大事だと思っているのである。回答は、ほぼこの二つに集中していた。議論で相手を負かす話し方、セールスや説得の話し方などは、女子大生たちにとっては、現在の生活上、切迫しないことがらにあたるためか、回答数が非常に少ない。

◆方言について

図6 方言が好きか？

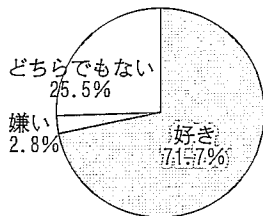


図7 将来、方言はどうか？

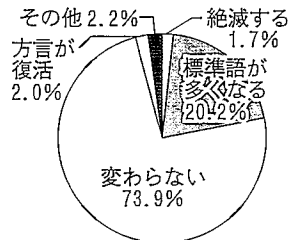
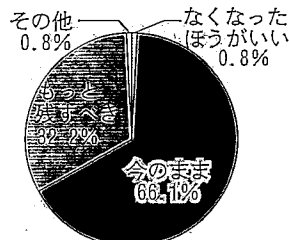


図8 将来、方言はどうか？



方言（あなたが使っている方言）について聞いたところ、方言が好きとした人は、7割以上、嫌いとした人は3%にも満たなかった。どちらでもないとした人は約4分の1（図6）。将来の方言に関しては、2つの質問を行った。まず、方言が将来どうなると思うか、という質問に対しては、今と変わらないが7割強、標準語が多くなるとした人が約2割であった（図7）。将来方言はどうかと思うか、という質問では、今のままがよいが66%、もっと残すべきだとする人が32%であった（図8）。

そこで、女子大生たちには、方言の将来に対する考え方の傾向があるのかどうかを、カイ自乗検定によって調べてみた（ χ^2 の値が3.84以上で危険率5%以下の有意差が認められる。自由度1）。結果は、 $\chi^2 = 14.69$ であり、次の2点が、統計的にみて、偶然によるものではなく意味のある傾向であることがわかった。

- ①現在の方言は、将来も今と変わらないだろうと考える人は、将来も今のままの状態がよいと考えている。
- ②現在の方言が減少し、将来標準語が多くなると考える人は、方言をもっと残すべきだと考えている。
- ②は、標準語が方言にとってかわるのではないだろうかと、危機感を覚えている人たちだと言えそうだ。

◆敬語について

図9 敬語は好きか？

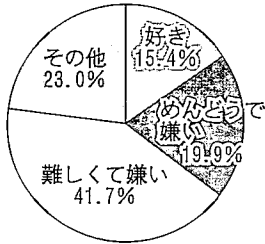


図10 将来、敬語は
どうなるか？

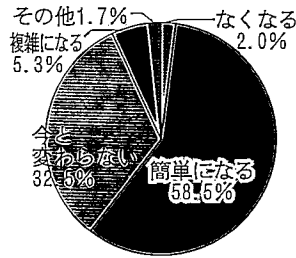
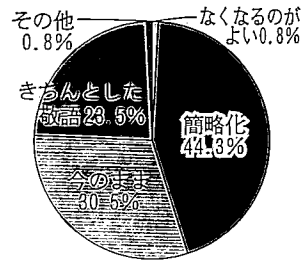


図11 将来、敬語はど
うなるのがよいか？



敬語については、過去にアンケート調査を行ったことがある（1997年1月）。内容は、敬語の具体的な使い方を聞いたものであり、その結果、女子大生たちは、敬語の知識を学習によってある程度もっており、過剰敬語やレル敬語の多用などといった特徴が見られた（LCりぼーとvol.7で報告）。今回、その敬語について、好きか嫌いかと質問したところ、好きと答えた人は約15%であり、めんどくさい（19.8%）と、難しく嫌い（41.7%）を合わせると、6割以上の方が敬語を敬遠していることがわかる（図9）。そして、めんどくさいだからというよりも、難しいから嫌いだと感じている人の方が多いことが注目される。敬語用法の難しさが、過剰敬語やレル敬語の多用という、いわば単純な敬語形式を使用する傾向を引き起こしていると考えられる。

将来の敬語については次の2つの質問をした。まず、将来どうなると思うかという質問に対しては、今よりも簡単になると答えた人が6割弱、今と変わらないとした人が3割強であった（図10）。次に将来どうなるのがよいと考えるかについては、今よりは簡略化するのがよいとする人が約44%、今のままでいいとする人が約30%、もっときちんとした敬語を使うのがよいと回答した人が約23%であった（図11）。

これら将来の敬語に関する2つの回答についても、考え方の傾向があるのかどうか、カイ自乗検定で調べてみることにした（ χ^2 の値が5.99以上で危険率5%以下の有意差が認められる。自由度2）。結果は、 $\chi^2=9.78$ であり、次のような傾向があることがわかった。

- ①将来、敬語は今よりも簡単になるだろうと考えている人は、今よりももっと敬語を簡略化するのがよいと考えている。
 - ②将来の敬語は今と変わらないのではないかと考えている人は、将来も今のままの敬語でよいと考えている。
- ①②から、将来の敬語のあり方に対する希望と、自分の予測とはパラレルな関係にあることがわかる。

あとがき

1999. Oct.

アンケートにご協力くださった学生の皆さんにお礼を申し上げます。

[担当] 佐竹秀雄・岸本千秋